

DX導入の推進で、独自技術を世界市場へ展開 感染症の総合プラットフォームへと成長させる

マイキャン・テクノロジーズ株式会社

京都市西京区御陵大原1-36 京大桂ベンチャープラザ

あらゆる人々の健康に貢献していくために DX導入の推進で世界展開をスマートに



当社は2016年、再生医療技術を活用した特殊な血球提供を通じ世界のあらゆる人々の健康に貢献することを使命として創業いたしました。感染症研究や医薬・機能素材の効能・安全性評価を飛躍的に効率化させることが可能な均質で精度の高い「不死化血球細胞」を再生医療技術により必要量生産・供給しています。そのほかに、開封後すぐに評価を開始することができるよう最適化された「評価用キット」の販売、「評価受託サービス」も行なっております。遺伝子の選び方、分化段階の調整、不死遺伝子導入ポイントの見極めなど様々な要素を総合的に組み合わせ設計する「細胞デザイン技術」は当社独自のコアコンピタンスです。そして、「世界のあらゆる人が、感染症の脅威に怯えずに暮らせる社会の実現を目指す」というビジョンを掲げ2030年の目標である「感染症に対する〈研究・診断・創薬・安全性の〉総合プラットフォーム企業」へと成長するために、DX化のさらなる推進へと取り組んでいるところです。

当社の企業価値である「研究開発技術」を 最大限に発揮するためのDX化推進で見た課題

デジタル化・DX実践講座を受講し「DXプラン」を策定していく過程で、社内の課題を抽出することができました。現状、完全にはシステム化されていない試薬などの在庫管理・棚卸しや毒物・劇物管理、海外出張に関わる業務、経理関連をデジタル化で刷新することで、間接作業時間を短縮し、当社のコアである「研究開発」に集中投資することを当初の目的としました。講座を受け、在庫管理システムの具体的な導入検討など社内一体でDX化推進へと意識改革が前進、まずは短期的な課題解決に向けて取り組み始めることができた点は非常に良かったです。また、受講を通じて、地元企業の方々と交流できた点も大きなポイントです。

講座終了後の専門家個別派遣を受けるなかで「企業価値の向上と事業拡大のためにDX化を推進すべき」との助言を受け「DXプラン」を再考することとしました。短期的な内向きな改革としてのDX導入だけではなく長期的なビジョンでの経営戦略の見直し、事業展開計画とその再構築、それに伴う新たな課題解決のためにDX化を推進する必要があることに気付きました。当社は、2025年1月より独自技術の血球細胞・免疫細胞（ミエロイド系細胞; Mylc細胞）の細胞販売事業を活かした「評価用

キット」の販売と「評価受託サービス」の世界展開を計画しています。現状では「評価テストで出力されたデータ」を当社で解析し、結果を返送するという業務フローがデジタル化による自動化がなされていません。キット販売～アフターサービスまで一貫してDX化することで、人的・時間的コストを省力化、当社の資源である人材を活かした経営が可能になり、研究者が働きやすい職場環境づくりと、顧客へのより質の高いサービス提供を目指すことができ、企業価値の向上につなげることができます。そして、ソフト導入で解決するといったようなDX化ではなく、真のDX化を少しずつ理解していくなかで見えてきた事業拡大のビジョンと計画を推進するためにDX化による課題解決へと取り組んでいるところです。

現時点での取り組み状況と課題

社内的なDXも進めつつ、優先順位としてまずは世界展開に向けたDX化に取り組んでいます。具体的にはキット販売～アフターサービスまでのクラウドサービス化です。現在テスト販売を開始しており、そこから得られたデータを積み上げて、膨大なデータや海外を含め多量のアクセスに耐えられるか、セキュリティの観点も含め様々な角度から検証を重ねています。また、UIやUXを意識した多言語化への展開などサービスの価値を最大化させるDXとして再検討中です。サービスを最適化するために、顧客が導入している測定機械のシェア分析や出力データ解析にかかる条件や仕様方法と工数配分などの調査を行うなど、正式版リリース予定の2025年1月の販売開始を見据え、タスクマネジメントしています。



Mylc細胞を軸に創薬支援事業や MAT試験市場へと成長拡大を目指す

クラウド化により集積されたデータを活用することで、顧客サービスの向上につなげていくことが可能となり、追跡データで顧客のフォローアップや在庫コントロール・スケジュール管理など様々なタスクがデータとして見える化され、共有することができます。販路拡大や提案営業もスマートに展開でき、より良い職場環境づくりと企業価値を高めることができると考えてDX化推進に取り組んでいます。また、それらの事業を堅実に進めることでMylc細胞の細胞販売事業から診断キット/創薬支援事業へと成長することができます。さらに、注射剤、医療機器、再生医療製品、バイオ医薬品製品、透析用剤などの出荷前に必須である安全性“試験”で行われている発熱性物質試験での動物資源からの置き換えとしてMAT試験が世界的に注目されている中で、当社独自技術のMylc細胞を用いた新試験製品を開発中、MAT市場への参入を進め、当社のビジョンである「世界のあらゆる人が、感染症の脅威に怯えずに暮らせる社会の実現」と感染症に対する総合プラットフォーム企業を目指しています。